

# 神経精神科学

責任者：大塚 耕太郎 教授

## 教育成果（アウトカム）：

こころの病気により精神的、心理的、身体的に複雑な問題を抱えた患者の訴え、症候、状態、診断に関する知識を現場で整理し、過程に関わることで、精神医学の基本的問題のアセスメントの理解に到達する。精神疾患をもつ患者への医療面接を行い、診断、治療および医療連携を理解することで、患者の回復に向けた対応、および地域社会へ移行するための対応の理解に到達する。

(ディプロマポリシー：2,5,7)

## 行動目標（SBOs）：

- \* 1. 初診時に患者および家族と良好な関係が構築できる。（\*）
- \* 2. 初診時の面接、問診で情報の収集ができる。
- \* 3. 他科の医師、看護師およびその記録から情報の収集ができる。
  - 4. 病歴の項目を列挙でき、その項目について精神医学的に必要な内容を選択することができる。
  - 5. 精神医学の病歴は患者自身から聴取する場合と、家族などから聴取する場合とがある。両者の場合を想定し、どんな場合かを述べることができる。
- \* 6. 精神科におけるよい病歴とは何か説明できる。
  - 7. 問診で注意すべき点をあげることができる。
- \* 8. 精神症状の所見をとることができる。
  - (1) 疎通性を理解し、感じることができる。
  - (2) 知覚障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (3) 思考障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (4) 感情障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (5) 意志障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (6) 意識障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (7) 自我意識障害の症状を列挙し、説明できる。
  - (8) パーソナリティ障害を分類し、説明できる。
- 9. 身体所見、神経学的所見をとることができる。
- 10. 検査所見を正しく読み取り、記載することができる。
  - (1) 頭部のCT、MRI、SPECT 所見を評価できる。
  - (2) 覚醒時および睡眠時の脳波所見について説明できる。
  - (3) 脳波上の特異的異常所見と非特異的異常所見について説明できる。
  - (4) 心理検査の種類をあげ説明できる。
- 11. 各精神疾患についての診断および鑑別診断ができる。
  - (1) 各精神疾患の疫学的特長を説明できる。
  - (2) 各精神疾患の原因および原因論について説明できる。
- \* (3) 操作的診断基準を使用し診断できる。
  - (4) 神経症の理論について説明できる。

12. 経過を予測できる。
13. 薬物の選択ができ、その理由について説明できる。
- \*14. 精神療法の種類を列挙し、説明できる。
15. 理学療法の種類を列挙できる。
16. レクリエーション療法を説明できる。
17. コンサルテーション・リエゾン精神医学について説明できる。
- \*18. 指導医に患者さんの状況を説明できる。
19. 指導医に指導を求めることができる。
- \*20. 精神保健福祉法について説明できる。
- \*21. 精神保健福祉法のもとの入院の種類を列挙し、説明できる。
- \*22. 診療記録の判読と記載ができる。

### **特に留意すべき注意事項：**

1. 他科実習の際も遵守すべき項目であるが、当科においては、以下の点に関して特に注意すること。
  - (1) 守秘義務を厳守すること。
  - (2) 患者さんに接する場合には、診療チームの一員として自覚を持ち言葉遣い、態度、服装に注意を払うこと。
  - (3) 患者さんの前で私語、失笑などをしないこと。
  - (4) 精神科病棟への入室は規定に従うこと。
  - (5) 患者さんと接するとき、治療方針などについては指導医、主治医とよく連絡を取るようにすること。
  - (6) 患者さんにできない約束をしないこと。
2. 事情により欠席する際は、同じ実習班の人に依頼せず、自分で医局に欠席の旨を連絡すること。
3. 実習初日に担当教員によるオリエンテーションがあるので、当日朝8:30に医局に集合すること。
4. デイケア見学当日は、出発前に出欠をとるため医局に出向くこと。
5. 担当症例に関するレポートを作成すること。提出は実習終了後1週間以内に医局秘書に提出すること。レポート内容に関しては、指導教官より改善点がある際は口頭にてフィードバックを行う。

### **事前学修内容および事前学修時間：**

オリエンテーションの際に受け持ちの患者および疾患を通知する。対象疾患に対して教科書を用いて事前学修（予習）を行うこと。事前学修の時間は最低1時間を要する。

## 第4・5学年臨床実習スケジュール[神経精神科学]

[第1週]

指導医師名：①大塚耕太郎教授 ②星克仁講師 ③福本健太郎助教 ④遠藤仁助教 ⑤三條克巳助教 ⑥工藤薫助教

曜	1時限	2時限	3時限	4時限
月	レクチャー、外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習
[場所] [指導医]	[外来・病棟] ④⑤⑥	[外来・病棟] ④⑤⑥	[外来・病棟] ④⑤⑥	[外来・病棟] ④⑤⑥
火	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学
[場所] [指導医]	[外来・病棟もしくは学外実習] ①④⑤⑥	[外来・病棟もしくは学外実習] ①④⑤⑥	[外来・病棟もしくは学外実習] ④⑤⑥	[外来・病棟もしくは学外実習] ④⑤⑥
水	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習、レクチャー
[場所] [指導医]	[外来・病棟] ②③④	[外来・病棟] ②③④	[外来・病棟] ②③④	[外来・病棟] ②③④
木	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学	外来実習・病棟実習 もしくはデイケア見学
[場所] [指導医]	[外来・病棟もしくは学外実習] ②③④	[外来・病棟もしくは学外実習] ②③④	[外来・病棟もしくは学外実習] ②③④	[外来・病棟もしくは学外実習] ②③④
金	外来実習・病棟実習	外来実習・病棟実習	回診	レクチャー、まとめ
[場所] [指導医]	[外来・病棟] ①②③④	[外来・病棟] ①②③④	[病棟] ①	[病棟、医局] ①②

## 授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
視聴覚用機械	ノート型 PC	1 台	臨床実習における症例検討、資料作成
視聴覚用機械	DVD プレーヤ	1 台	臨床実習におけるビデオ学習
視聴覚用機械	データプロジェクター	1 台	臨床実習における症例検討会
その他	カラーレーザープリンター	1 台	臨床実習における講義資料作成
その他	複合機	1 台	講義資料作成用
視聴覚用機械	壁寄 TV スタンド	1 台	教育用 DVD 鑑賞
視聴覚用機械	50 型プラズマテレビ	1 台	教育用 DVD 鑑賞

## 成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：20 点
3. 技能：10 点
4. 問題解決能力：15 点
5. 技能試験：10 点
6. 指導医評価：10 点
7. ポートフォリオ：20 点